

「生体における微粒子の機能と制御」
平成 30 年度採択研究者

2018 年度
実績報告書

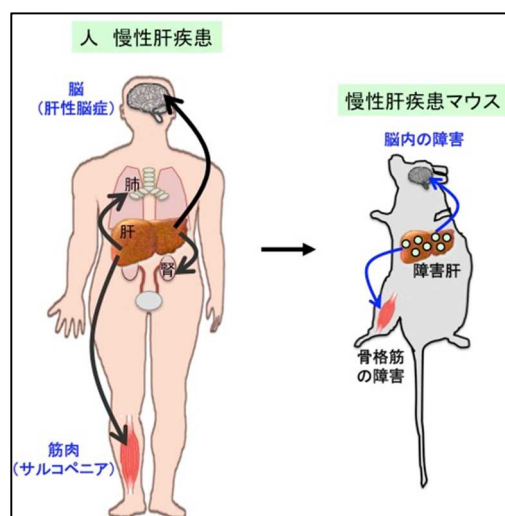
江口 暁子

三重大学大学院医学系研究科
特任助教

遠隔臓器間の病態伝播を担う内在性微粒子 microparticle の機能解明

§ 1. 研究成果の概要

肝疾患においてサルコペニア合併患者は予後不良であることや、肝硬変で肝性脳症を合併することが知られているが、分子メカニズムの全容は不明である。そこで慢性肝疾患マウスを用いて慢性肝疾患において遠隔臓器に合併症が起こる分子メカニズムを明らかにすることを目標とする。本年度は、慢性肝疾患マウスの中でも遠隔臓器(特に骨格筋や脳)に障害を発生するマウスモデルの構築を行い、実際に遠隔臓器で障害が発生していることを明らかにした。また、慢性肝疾患マウスでは血中の微粒子が増加することや、慢性肝疾患マウスにおいて生じている障害肝細胞を培養下で再現し、この障害肝細胞から微粒子が放出されていることを見つけた。



§ 2. 研究実施体制

① 研究者:江口 暁子 (三重大学大学院医学系研究科 特任助教)

②研究項目

- ・ 慢性肝疾患マウスの作製
- ・ 慢性肝疾患マウスの肝臓、骨格筋、脳の解析
- ・ 障害肝細胞が放出する微粒子の解析